

【 CT 部門】

● CT 検査とは？

CT (Computed Tomography) とは、X 線を発生させる管球と X 線を受ける検出器が対を成してリング状の中を高速回転し、データを収集して人体の輪切りの画像をコンピュータで作成する断層撮影装置です。

検査はベッドに寝たままで行え、必要に応じて造影剤を使用したり、息止めをしたりしていただきます。

技術の進歩により、広範囲を高速撮影でき、また最適なタイミングで撮影できるため、体を切ることなく、より詳細な検査を行えるようになりました。これらの画像データから様々な角度の断面像、3D 画像 (骨・血管・臓器など) を作成し、患者さんでもわかりやすい詳細な診断画像を提供します。

また、2021 年 5 月に導入された IQon Spectral CT は 2 層検出器を搭載した Dual Energy CT であり、従来の CT 画像に加え、X 線エネルギーの特性を利用した様々な画像が、すべての検査で作成する事ができます。これにより、複合的な画像解析結果を得られるようになりました。

● 装置 (使用機器)

CT 装置

[Philips 製 64 列 (128 スライス) IQon Spectral CT]



[Philips 製 128 列 (256 スライス) Brilliance iCT]



[CANON 製 80 列マルチスライス CT Aquilion™ Prime]



自動注入装置（インジェクター）

[根本杏林堂 デュアルショット GX7]

画像処理用ワークステーション

[Ziostation 2]

● 撮影方法・検査の流れ

1. 21 番中央放射線部で受付をし、6 番または 22 番の CT 室にお越しください。6 番では検査室前で受付表をお持ちいただいて近くの椅子に腰掛けてお待ちください。22 番では CT 室につきましたら、CT 室のスタッフに受付表を渡してください。造影剤の同意書をお持ちの方は、受付表と一緒に渡してください。
2. 準備ができましたらスタッフが受付番号でお呼びしますので、近くの椅子に腰掛けてお待ちください。
3. CT 装置の寝台に寝てもらいます。この時、検査内容によって体位を変えさせてもらいます。
4. 診療放射線技師が、撮影時の息止め(息を吸って止める、息を吐いて止める、など)や撮影回数などを説明します。
造影剤を使用する検査の場合は、看護師が血管確保を行い、造影剤を注入します。
5. 撮影終了後、CT 装置の寝台から降りていただき、検査が終了になります。
造影剤を使用した場合は、副作用等が出ないかしばらくの間確認してから各外来、入院病棟に戻っていただきます。
6. 検査時間は約 15 分程です。検査内容によっては 15 分以上かかることもあります。

● CT 検査の注意事項

撮影範囲内に衣服の金具、メガネ、補聴器、ヘアピン、ピアス、入れ歯、金属性の装飾品等が含まれる場合は外していただきます。

下記に該当される患者様は必ず担当技師にお伝えください。場合により、装着機器の取り外しや機器の電源を切って検査を行うことがあります。

- ① 持続血糖モニターセンサー、インスリンポンプ、トランスミッターを装着されている
- ② パーキンソン病でデュオドーバ治療、ヴィアレブ治療を行っている
- ③ DBS、VNS、SCS を行っている

● 被ばく線量

当院の CT 検査における被ばく線量は以下ようになります。

各撮影部位	当院		DRLs2025	
	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)
頭部	59	1255	67	1260
胸部	9	414	11	430
腹部	11	651	14	720
胸腹部	11	856	13	940

※DRLs2025: 医療被曝の線量指標を示した診断参考レベル

※標準体格: 50～70kg

当院の被ばく線量(中央値)は指標値以下ですが、診断可能な画質は担保されています。